



よみきかせだより

NO.7



鈴川小学校
読み聞かせの会



大人になってから、
絵本を読んで涙が止まらなかった。
大笑いした。
そんな経験はありますか？



3学期の授業参観日に
「大人が楽しむ読み聞かせ」を催します。
是非この機会に
「えほんの持つ力」「おはなしの世界」を
体験してみてください。



「子どもはね、ひなたの温もりをたっぷり
浴びて育つ権利があるんだ。」 瀬田 貞二

雪が降り、山も白く雪化粧。すっかり冬らしくなりました。
こんな寒い時期は、ストーブの前やこたつ、はたまたお布団
の中でぬくぬくしながら、お子さんと本を楽しんではいかが
でしょうか。ぽかぽかお風呂で昔話もいいですね。
大好きな人の声で聞くお話は、子どもに安らぎを与え心を温
めます。 高学年であれば、“原作とコミックを
読み比べて感想を親子で話し合う”なんて
いうのもいいかも！？



Let's ぬくぬく！

なぜ読み聞かせボランティアを
続けるのか。

「ボランティアをしている」というと「!？」と
いう反応をされる方が多いのですが、正直なところ、
崇高な使命を持ってやっているわけではなく、単純
に「好きだから楽しい」のです。読み聞かせに資格
は必要ありませんが、「子どもを知る」「子どもに
見合った本を知る」ことが最も重要になります。そ
の点、読み聞かせの会のメンバーはとても勉強熱心
です。好きだからこそ自ずと学びたくなるのだと思
います。子どもたちの満足度が私たちの意欲となり、
次の一冊を選ぶ楽しさに繋がります。考え抜いて選
んだ一冊が子どもたちの求めているものと合致した
ときの、子どもたちの気持ちとリンクしたような、
ぽわっと心が温くなるようなあの瞬間に幸せを感
じます。

子どもが卒業しても、仕事をしていても、読み聞
かせボランティアを続けているのは「楽しいから」
なのです。

この本、知ってる？

『鬼の橋』

伊藤 遊 (作) 太田 大八 (絵) : 福音館書店



平安時代の京都。12歳の少年・小野篁は、妹
の死に罪の意識を感じ苦しみ、ふとしたことから冥
界へと紛れ込む。出会いと別れ。様々なことにも
がきながら篁は大人へと成長していく。

『たんたのたんけん』

中川 季枝子 (作) 山脇 百合子 (絵) : 学研プラス



たんたの誕生日の朝に舞い込んだのは、△や矢
印が描いてあるヘンテコな探検地図！相棒は
ちっちゃなヒョウの子、バリバリ・バリ。-わくわく
ドキドキな探検に、さあ出発です！

『わたしのろばベンジャミン』

ハンス・リマー (作) レナート・オスベック (写真) 松岡
享子 (訳) : こぐま社



小さな女の子スージーのチャーミングな笑顔と
産まれて間もないロバのベンジャミンの優しい
瞳に惹きつけられます。全てが可愛く全てが
温かく、とっても幸せになる絵本です。

はじめて
みませんか？



読み聞かせボランティアは
子どもと本のかけ橋

読書ボランティア
随時募集中

担任の先生を通してお申し込みください

